

## 桜 島

### 火山活動度レベル

レベル 2 (比較的静穏な噴火活動)で経過しました。

### 概 況

噴火<sup>1)</sup>を 2 回観測し、このうち 1 回は爆発的噴火でした。B 型地震がやや増えていますが、桜島の活動としては比較的静穏な状況が続いています。

#### ・噴火活動の状況(表 1)

噴火を 2 回観測し、このうち 1 回は爆発的噴火でした。19 日 09 時 50 分の爆発的噴火では、体感空振や爆発音はなく、噴石もありませんでした。

#### ・噴煙活動の状況(図 2)

灰白色の噴煙が時々観測され、最高高度は 19 日の爆発に伴う 1,200m でした。

#### ・降灰の状況(表 2、図 2、図 3)

鹿児島地方気象台における観測<sup>2)</sup>では、降灰はありませんでした。

#### ・地震・微動活動の状況(表 3、図 2 ~ 4)

火山性地震は、B 型地震がやや増加し、日回数で 200 回を超える日がありましたが、いずれもごく小規模なものでした。また、長期的には少ない状況です。

火山性微動は 73 回発生し、いずれも継続時間 2 分未満の短いものでした。4 月の微動継続時間の合計は 58 分でした。

#### ・地殻変動の状況(図 6)

G P S 連続観測による地殻変動観測では、長期的に東西方向のわずかな伸びの傾向が続いています。

1) 桜島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的な噴火もしくは一定規模以上の噴火の回数を計数しています。資料の噴火回数はこの回数を示します。

2) 鹿児島地方気象台(南岳の西南西、約 11km)における前日 09 時 ~ 当日 09 時に降った 1 m<sup>2</sup>あたりの総降灰量を観測しています。

---

震央分布図等の資料作成にあたっては、気象庁のデータの他、鹿児島大学、京都大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータを使用しています。また、地図の作成にあたっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の数値地図 50m メッシュ(標高)、25000 分の 1 の地形図を使用しています(承認番号:平 17 総使、第 503 号)

表 1 最近 1 年間の月別噴火回数(2005 年 5 月～2006 年 4 月)

2005～2006 年	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月
噴火回数	-	1	8	-	2	2	1	2	1	3	-	2
爆発的噴火	-	1	8	-	-	-	1	1	1	3	-	1
噴火日数	2	2	7	6	7	12	11	3	2	4	7	13

4 月 19 日に爆発的噴火が発生しました。

噴火日数にはごく小規模の噴火も含まれる。

表 2 最近 1 年間の月別降灰量と降灰日数(2005 年 5 月～2006 年 4 月)

2005～2006 年	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月
降灰量(g/m <sup>2</sup> )	-	0	-	-	2	0	1	-	-	-	-	-
降灰日数	-	1	-	-	2	5	1	-	-	-	-	-

「-」は降灰なし、「0」は 1 m<sup>2</sup>あたり 0.5 g/m<sup>2</sup>未満を表します。

4 月は、鹿児島地方気象台では降灰は観測されませんでした。

表 3 最近 1 年間の地震・微動回数(B 点：2005 年 5 月～2006 年 4 月)

2005～2006 年	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月
地震回数	236	50	129	132	303	202	485	532	1128	586	1933	4134
微動回数	2	0	29	2	5	0	2	21	12	13	16	73

4 月は、火山性地震がやや増加し、そのほとんどはごく小規模な B 型地震でした。また、継続時間の短い微動がやや増加しました。

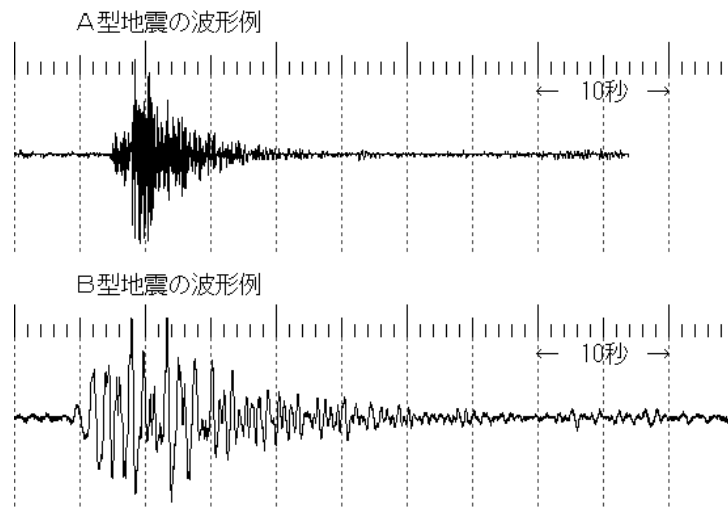


図 1 桜島における火山性 A 型地震と B 型地震の波形例

桜島で発生する火山性地震には、マグマの貫入に伴う火道周辺の岩盤破壊によって発生する、高周波で P・S 波が明瞭な A 型地震や、マグマが火道を上昇するときの柔らかい部分の破壊やマグマの発泡現象によって発生する、低周波の B 型地震などがあります。

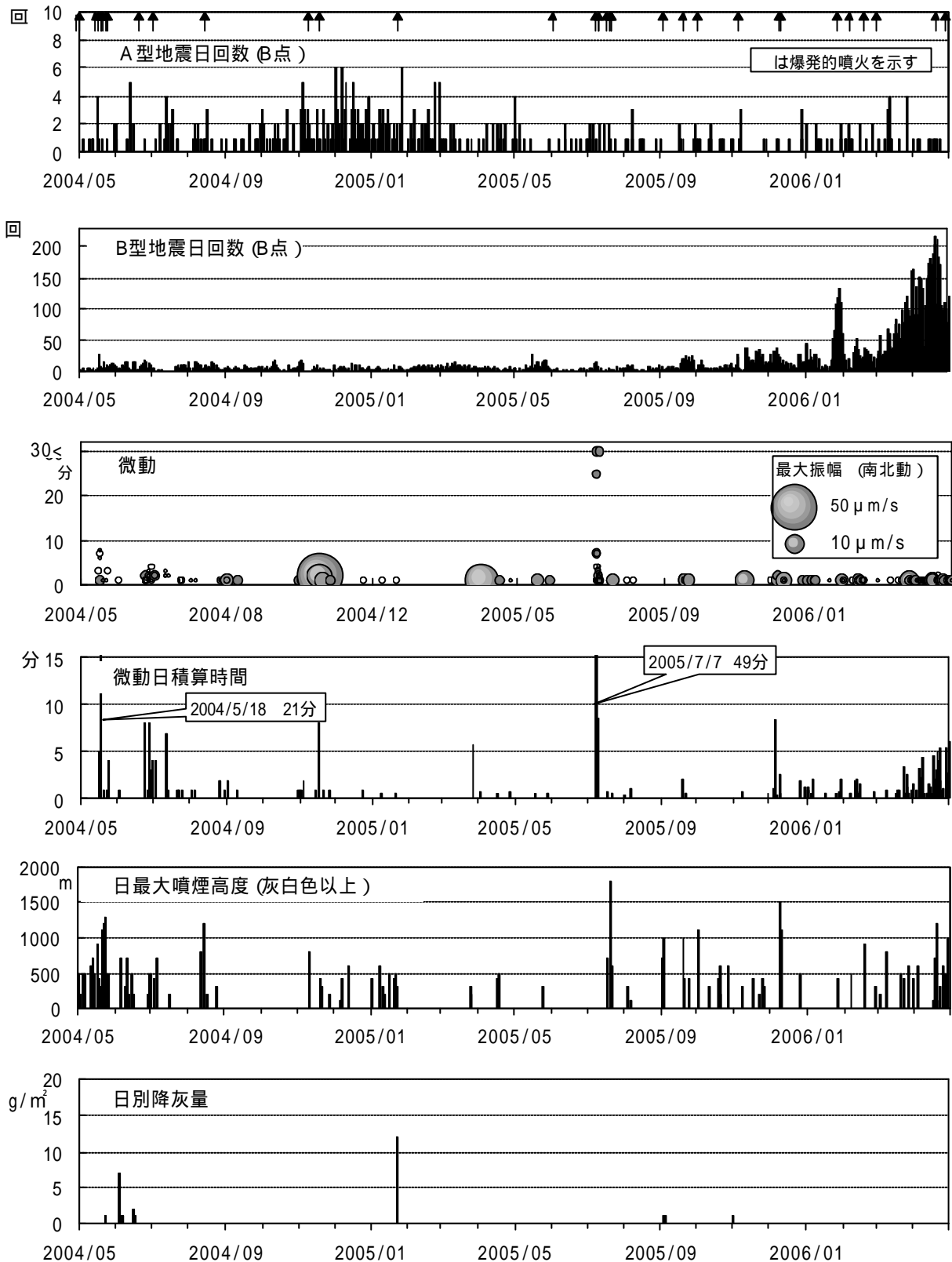


図2 最近2年間の火山活動経過図(2004年5月～2006年4月)  
 4月の火山性A型地震は、月合計で8回(3月は17回)観測しました。  
 火山性B型地震は、月合計で4125回(3月は1915回)と増加しました。  
 火山性微動は、月回数73回(継続時間合計58分)で、3月(16回、継続時間合計13分)より増加しましたが、いずれも継続時間の短いものでした。

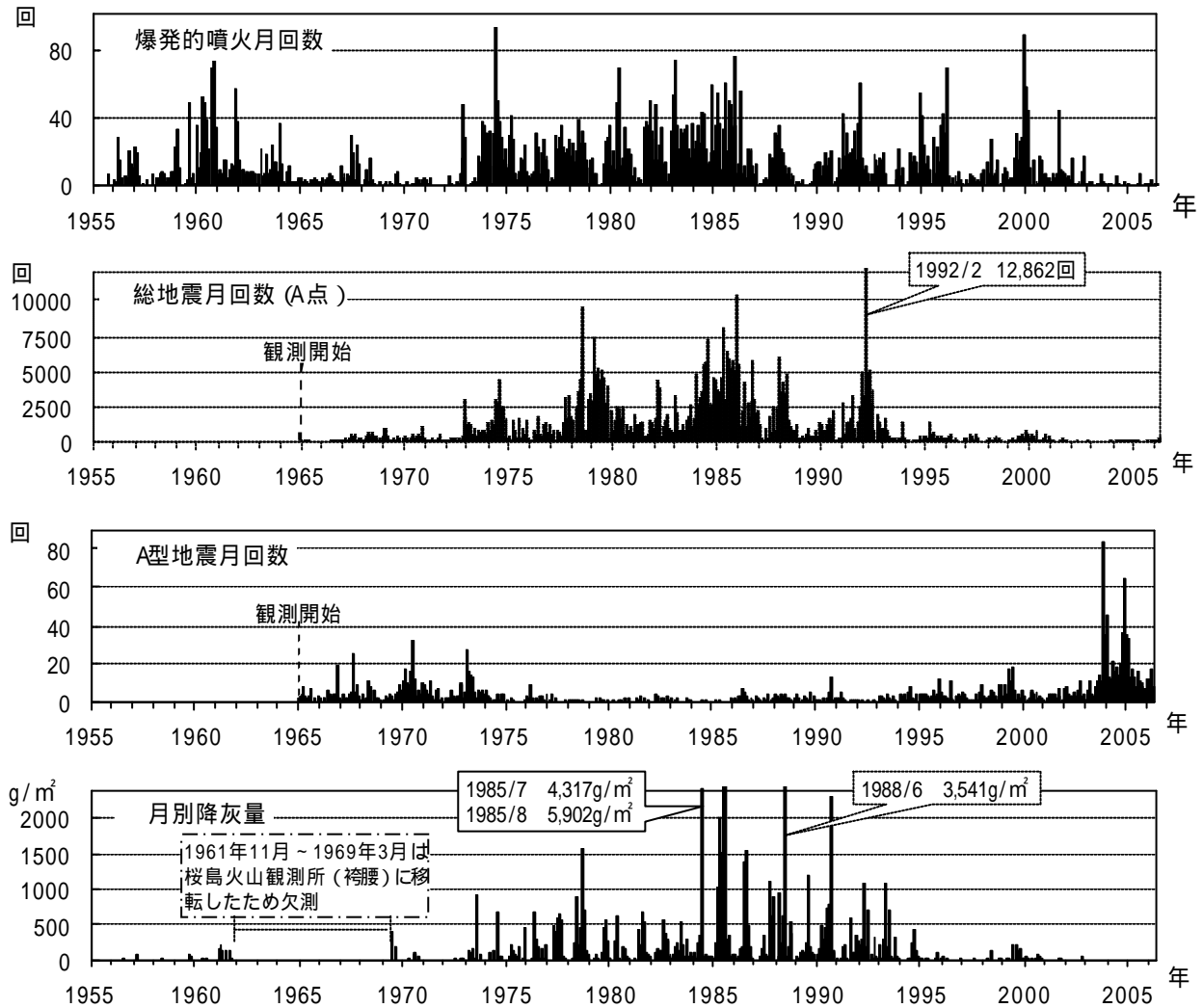


図3 長期の火山活動経過図(1955年1月～2006年4月)  
爆発的噴火や火山性地震は、長期的には少ない傾向が続いています。

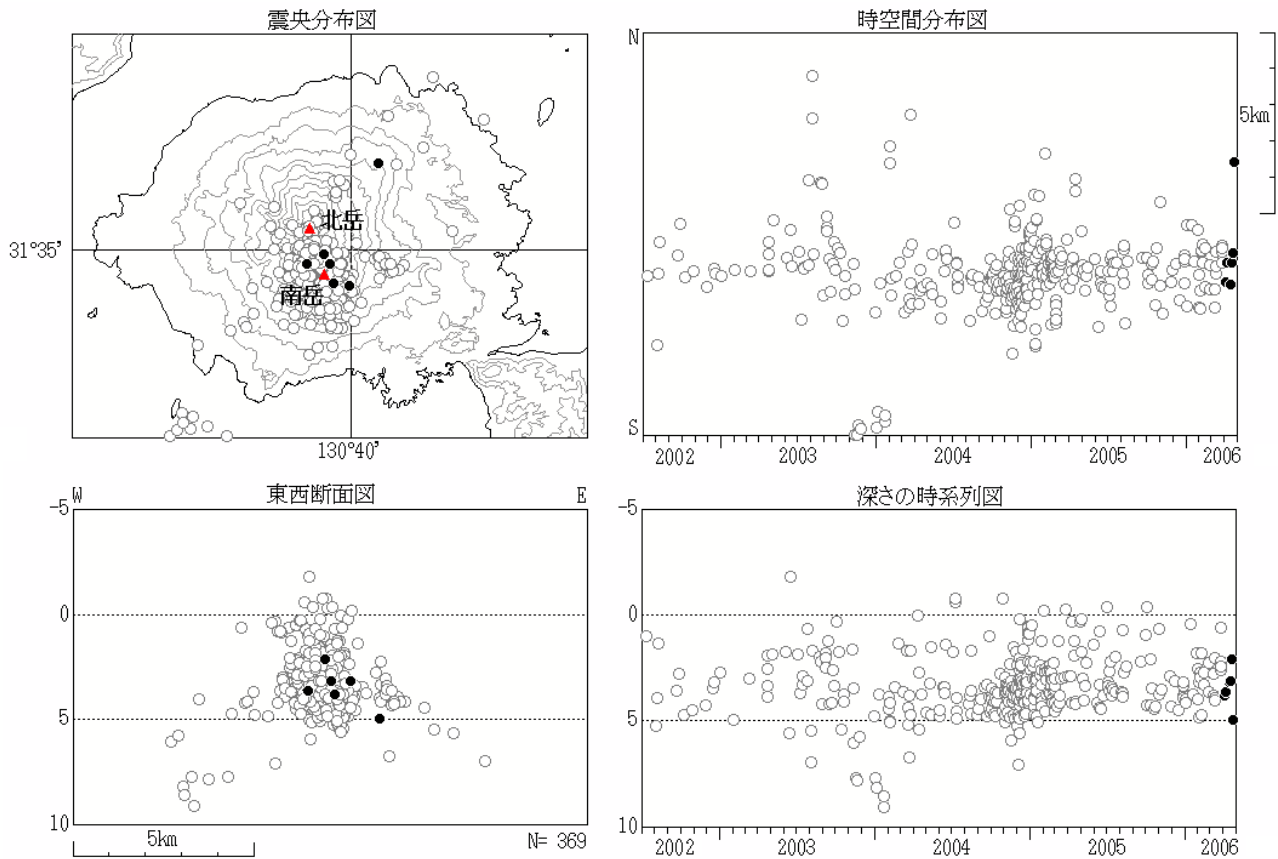


図4 火山性A型地震の震源分布図(2002年7月～2006年4月)

震源は南岳付近の海面下2～4kmに分布しました。

今期間の震源は黒丸で表示しています。

本資料は、気象庁データの他、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータを用いて作成しています。本資料の地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図50mメッシュ(標高)を利用しています。

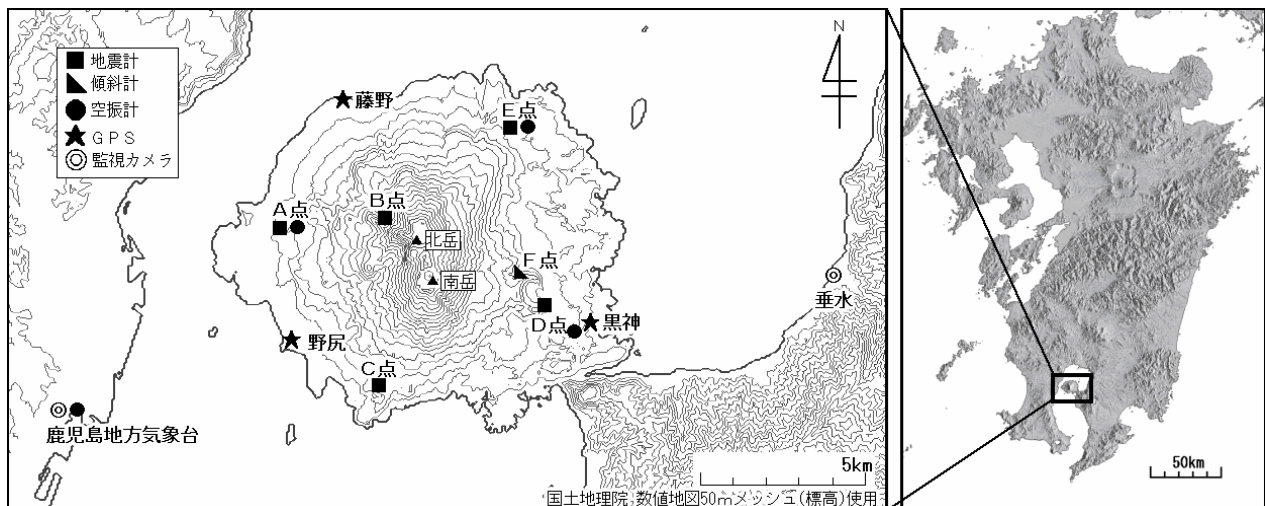
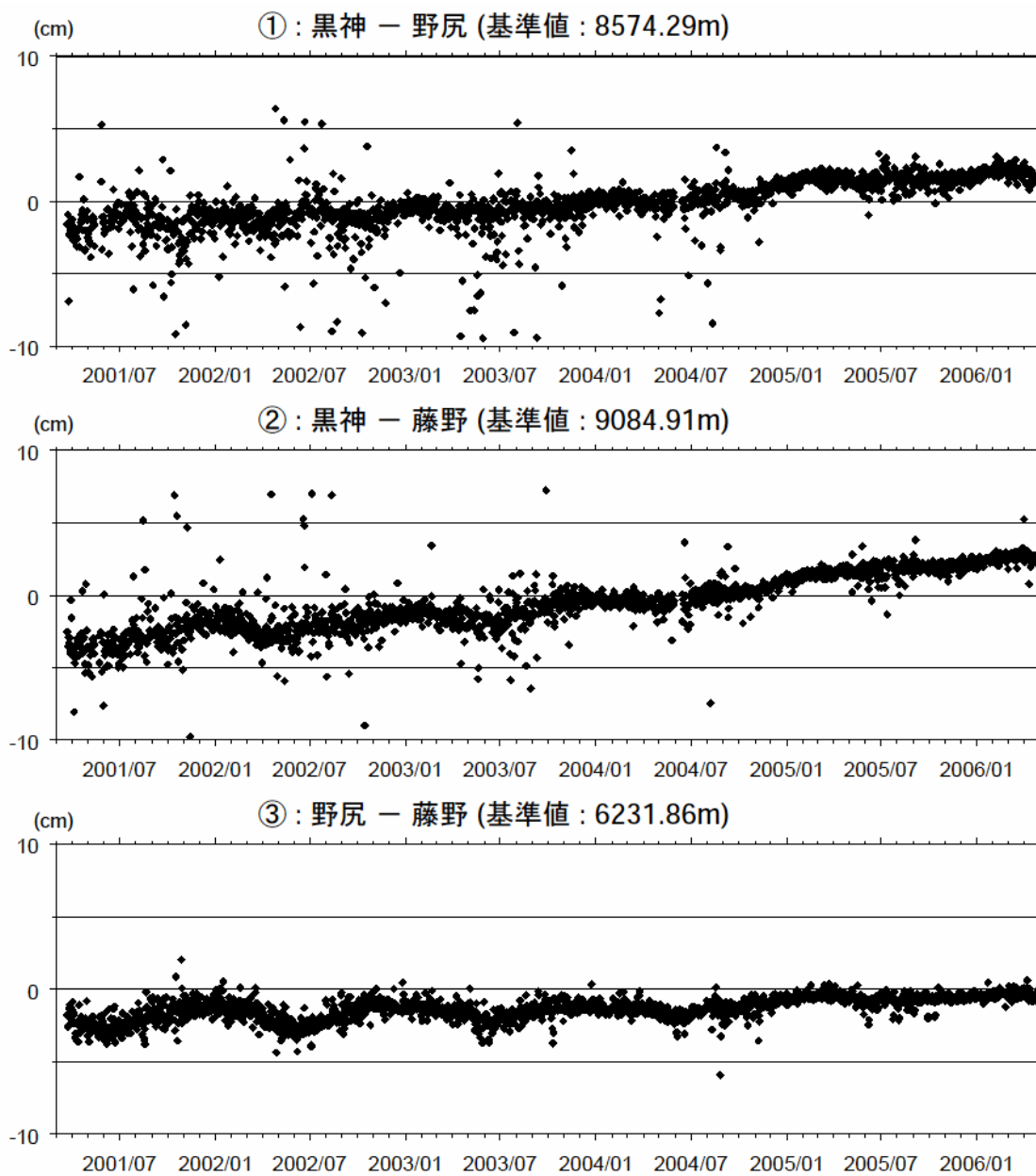


図5 桜島観測点配置図



基線長変化グラフの空白部分は欠測

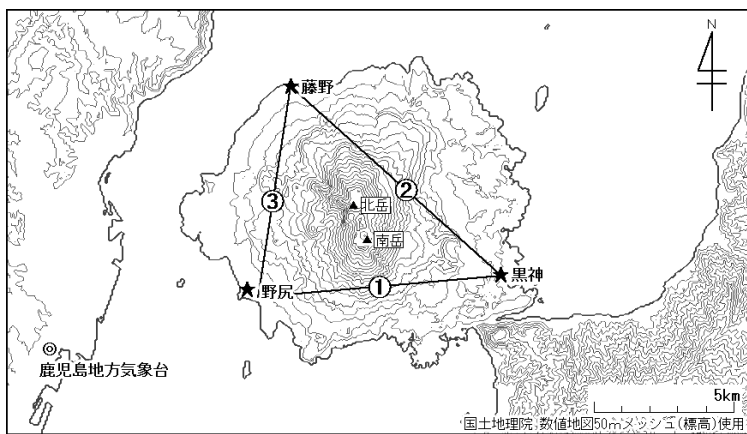


図 6 GPS による基線長変化(2001 年 3 月 22 日 ~ 2006 年 4 月 30 日)  
GPS 連続観測による観測では、長期的には東西方向にわずかな伸びの傾向が続いています。